



**【重要事項】** 浸水継続時間図は、水防法に基づき、輸送府県知事が高潮による浸水が想定される範囲、浸水した場合に想定される水深等を表示した図面です。

- 高潮浸水想定区域図の作成にあたっては、最悪の事態を想定し、我が国における居住域大規模の台風を基本とし、各沿岸で潮位偏差（満位と干支差の差）が最大となるような複数の経路を想定して高潮浸水シミュレーションを実施し、その結果を基に、最悪の浸水深が示されるようになっています。
- 最大クラスの台風は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した台風や高潮から想定したものであり、これよりも大きな高潮が発生しないというものはありません。
- 最大クラスの台風を引き起こす台風の中心気圧としては、我が国で既往最大規模の台風（昭和9年）を想定しています。なお、この規模の中心気圧を持つ台風が来襲する確率は三つに一度（約33%）程度と想定されています。
- 浸水想定区域図は、局所的な地形の凹凸や建築物の影響のほか、前提とした各種条件を超える事象により、浸水域がさらに拡大する場合があります。
- 地形図は、主に平成20年度に作成されたデータを使用しており、現在の地形と異なる場合もあります。
- 地下に湧き出ている階段、エスレクター、換気口等が、浸水区域に存在する場合、地下空間が浸水する恐れがあります。
- 地盤高が明瞭な高潮浸水想定区域図より低い地域については、堤防等が浸没した後、高潮が収束した後でも、日々の干潮によって、浸水が発生する可能性があります。
- 確実な避難のためには、気象庁が事前に発表する台風情報（気象庁は日本列島に大きな影響を及ぼす台風が接近している時には、24時間先までの3時間刻みの予報等を発表しています。）や、市町村で今後作成されるハザードマップ等を活用してください。
- 台風の来襲する前に避難を完了し、高潮警報や避難勧告が解除されるまでは、避難を継続する必要があります。
- 今後、数値的精度や表記の改善等により、修正の可能性があります。

**【用語の解説】**（図一（参照））

- 浸水継続時間：浸水深が50cmに下ってから50cmを下り始めるまでの時間です。
- ここで50cmは、高潮時に避難が困難となり孤立する可能性のある水深として設定しています。
- なお、一旦水が引いて50cmを下り始めた後、高潮等により再度浸水して50cmを上回った場合は、図一のように最初に50cmを上回ってから最終的に50cmを下り始めるまでの通算の時間としています。

緊急的な排水対策等は考慮していません。

